

第108回 生涯学習分科会提出資料(関 福生)

- ★ 従来の生涯学習・社会教育の基本「集う」という機能が遮断され、曝け出された弱点
「いつでも・どこでも・だれでも」学べる環境づくりといいながら怠ってきたことへのしっぺ返し
学校教育だけではなく、生涯学習・社会教育にも学びの格差が拡大
➡ 新型コロナが新しい学び創造の必要性を突き付けてくれた。逆境こそ変革の好機

議論の整理(素案)について

1. SDGs(持続可能な開発目標)を今後10年間の生涯学習・社会教育の基本に据え、開発目標の達成に向けて、これまで培ってきた学びの手法を一層充実させるべき
 - (1)すでに1/3の期間が経過し、認知度は1/3程度 もっと社会教育に関わるべき
 - (2)「ひとづくり・地域づくり・つながりづくり」をSDGsの達成で実現できるのではないか。
 - (3)子どもと大人が共に考え、行動することが可能になる。
 - (4)目標から現状を見る・世界から地域を見る・様々な関係者がつながるアプローチを学ぶ。
2. 新しいテクノロジーを活用して、これまでと違う「集う」を創り出すことが必要
 - (1)ZOOMのようなコミュニケーションツールがあり、一方にはMoocsのような個別最適化を追求できるツールがある。これらの領域に生涯学習・社会教育が一層踏み込むべき
 - (2)現状ではテクノロジーとの関わりに地域間、世代間格差が大きい。社会教育が学習の場を提供し、テクノロジー弱者を少しでも減らすための学べる環境を整えるべき。ハードも
3. 社会教育士が資格取得だけでなく、活躍できる環境づくりを進める。
 - (1)社会教育主事が社会教育行政の専門職員であるのに対して、社会教育士は社会教育のマインドを持った他分野の専門家だと考える。両者がうまく連携協働することで多様な学びが生まれ出されると考える。
 - (2)社会教育主事講習受講の隘路は時間と予算。ウェブ配信で家庭や職場でも受講することを可能とし、反転授業的なものを行うことで新しい学びのモデルにできないか。
4. 学習歴が評価される社会を目指し、学びのポートフォリオの全国展開を実現。
 - (1)すでに民間等で取り組まれている学校教育ターゲットのポートフォリオを生涯学習版に拡充できないか検討してほしい。全国共通であればもっと普及するのではないか。
5. GPを省庁間の垣根を越え、全国に情報発信するプラットフォームをつくる。

- (1) JMOOC のような場において、先進的な実践事例を紹介する講座を開講できないか。
- (2) すでにある生涯学習まちづくりや住民自治の首長ネットワークの再構築はできないか。